

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域から信頼され必要とされる「地域に根ざした身近な府立高校」づくりのため「南河内の星」すなわち地域のリーダーを育てる学校づくりを行う。その基礎となる生徒育成目標として「何事にもあきらめずに自信を持って生き、人としての行うべき義務、主張する権利を理解した善良な市民として活躍できる生徒の育成を図る」を掲げながら、互いの意志を尊重しあう風土を醸成することを基本として心の絆を強めあい、互いを尊重できる良好なコミュニケーションを育て、学び合い高め合う関係を構築する。その上で、すべての生徒に以下の「心と態度と力」を身につけさせる。

- (1) 健やかな体と豊かな心を育てる。
- (2) 学ぶ喜びと将来への希望を持たせ、本来自分が持つ力を発揮する態度を養う。
- (3) 反省と克己に基づく自己教育力を育成し、自己選択・自己決定ができる力を向上させる。
- (4) 地域の歴史、自然、文化に学び郷土を愛する力を付ける。
- (5) 郷土愛を醸成した上で、世界に通じる人材を育成する。特に、国際理解教育に力点を置いていく。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成(勉強がわかる喜びの育成)

(1) 生徒の基礎学力を向上させる

- ① 「分る授業」・「楽しい授業を」実現するため、習熟度別少人数授業を積極的に展開し、小・中学校でのつまづきを回復し、基礎学力の充実を図り、自ら学ぶ意欲を育てる。
- ② 授業力向上プロジェクトチームを発足し、公開授業や研究授業などの授業力向上についての取り組みを積極的に展開し、授業の質と教員の授業力の向上に努める。
- ③ 学校経営推進事業により情報環境を整え、ICT 機器を活用し、生徒が意欲的に取り組むことのできる授業改善に取り組む。書画カメラ、タブレット端末などを活用しながら新しい授業形態(学び合い協同学習)を導入・拡大する。
- ④ 朝学習を導入し、学習習慣の定着を図る。
- ⑤ 基礎学力診断テストを継続して実施し、その結果を授業や補習、講習等に活用する。
- ⑥ 種々の授業形態や方法等の研究に努め、外部講師を招聘した校内研修や校外研修、他校との交流を積極的に行う。

(2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた教育課程を編成する。

- ① 難関私立四年制(産近甲龍)大学進学希望者を対象に、特別授業を実施する。(5名の入学をめざしていく)
- ② 看護・医療系進学希望者が増加している中、それに対応した教育課程を完成させる。
- ③ 三年間の総合学習のなかで「シチズン教育」「郷土学」を導入し体験的な学習や自己探求型学習を導入する。地元探訪を中心とした「郷土学」の基盤を完成させ、新たなコース設定につなげていく。
- ④ 「アドバンスコース(大学、看護医療進学)」「キャリアトライコース(就職)」「ベーシックコース(専門学校他)」など生徒の多様な進路希望に対応するコース設置を具体化させる。
- ⑤ 進路 HR の時期、内容を再検討し、④とリンクさせ3年間のキャリアデザインを作成する。
* 学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の項目を3年間で80%に引き上げる。

2 子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ。

(1) 生徒の規範意識を高め、社会人として活躍できる人材を育成する。

- ① 地域と連携したボランティア活動(クリーンキャンペーンやあいさつ運動)を通して、社会の一員としての自覚を養い、規範意識の育成に努める。
- ② 時間を守ることの大切さを徹底して指導し、欠席・遅刻・早退を減少させる。
- ③ 通学時の安全確保のため、正門・通用門及び校外においても毎日交通安全指導を行う。
- ④ 美化意識を高めるために定期的に美化運動を行う。
- ⑤ 身近な生活の中生起する人権課題(いじめやSNS等)に対して人権意識の高揚を図る。
* 欠席者数・遅刻者数を毎年2割ずつ減少させ2年後には半減させる。

(2) クラブ活動の活性化を図り、その成果を校外へ発信することにより、自己肯定感を養い、自立的発達を促す。

- ① 体験入部システムの改善や部活動結果の広報充実により加入率をアップさせる。
- ② 生徒に魅力あるクラブ活動を提供できるよう、教員が専門的知識の習得とスキルアップに努める。さらに体罰防止講習を実施する。
* 生徒の部活動加入率を次年度には40%まで引き上げる(平成27年度は30%)

3 中退防止の推進

- (1) 1、確かな学力の育成 2、子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみに係る取り組みを実践することで、留年者・中途退学者数を30%減少させる。

4 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり

(1) 入学時のオリエンテーションの内容を見直し、生徒が生き生きと学び夢が実現する学校であることをアピールする。

- ① 学校教育と家庭教育の連携を深め、保護者からの相談を積極的に受け入れる。また、学校からはさまざまな指導の協力を要請する。
- ② カウンセリングマインドを持ち、生徒の立場に立った指導を展開する。家庭との連携をとりながら生徒の自立を助け、正しい規範意識を身に付けた社会人の育成を行う。
- ③ 在籍生徒の出身中学校に年2回以上の学校訪問を行い、中学校との連携をよりいっそう密接に行う。生徒指導においては中学校教員の協力を得ながら、人間関係作り・自らの生き方を考える取り組みを推進する。

* 学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」の項目を今後2年間で80%以上に引き上げる。

<p>(2) 学校ホームページの充実を図り、学校情報の発信を強化することで、学校の信頼を高め、必要とされている学校という自信を生徒に持たせる。</p> <p>① 学校説明会・学校公開講座・楽習室(小中学生対象)の充実をはかり、開かれた学校づくりに努める。</p> <p>② 保護者への携帯連絡網を充実させ、登録割合を上昇させる。</p> <p>(3) 3年間を通じた計画的なキャリア教育を構築し、自らの手で将来を切り開く目と力を養い育成する。また、大阪中小企業家同友会と連携した取り組みを行う。 *キャリア教育において外部人材の登用回数と資格取得の機会を増やす。</p> <p>(4) 危機管理体制の充実と防災教育の再構築</p> <p>①いじめ等の未然防止、早期発見、対策について情報を共有し、機能しているか体制を常に点検する。</p> <p>②防災について有事の際のバリエーションをいくつか考え、より効果的な内容になるように再検討する。</p> <p>(5) 教育相談体制の充実</p> <p>①学校生活支援カードの活用や個別の支援計画の作成を通じて、教育相談体制の充実を図る。</p> <p>5 学校運営体制の確立と教職員の資質向上</p> <p>(1) 校長のリーダーシップのもと、校内組織の改編に取り組み、教育活動全般の改革を推進する。</p> <p>(2) 教職員の資質向上を図るため日常的なOJTの推進と校内研修の活性化を行う。初任者に対するメンター制度を導入する。また、校外研修で得た情報を校内でしっかり共有する。</p> <p>(3) ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教員の資質向上を図り、次世代の人材育成を行う。</p> <p>(4) 全校一斉教職員研修を実施する。(教職員全員で他府県の先駆的な取り組みまたは(5)の実現のため学ぶ機会を設ける。創立記念日を活用する)</p> <p>(5) 外国籍生徒の指導において、「高校における帰国・渡日生徒の日本語指導に向けた受け入れマニュアル」を参考に日本語指導のみならず他の教科についての指導法や評価について支援コーディネーターを中心に教員全体の理解と資質向上をめざす。また、外国籍生徒の学力保障のため入り込み授業を実施し、外部関係機関や外部人材の協力を得る。</p> <p>(6) 業務の効率化を図るため、会議の回数の軽減と校務処理システムの定着をめざす。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1、学校生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒からの「学校に行くのが楽しい」、「学校行事は、みんなが楽しく行えるよう工夫している」、「先生たちは生徒の意見をよく聞いてくれる」肯定的な評価は過半数を越えている。 ・保護者からの「学校は保護者の願いに込めている」71%、「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」79%と非常に高い評価となっている。 ・生徒、保護者ともに、本校の生徒会活動、部活動が活発ではないと感じている。特に過去三年間上昇していない。 <p>生徒・保護者ともに教員に対して信頼を寄せ、学校生活に一定の満足感を持っているが、部活動等プラスαについては活性化を求めている。</p> <p>2、授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業について、41期、42期ともに2年生時の学習理解の評価が大幅に下落している、一方で全ての学年で授業の工夫やICT機器の活用を評価している。特に42期は昨年より評価が上昇している。 ・授業については学習意欲があるが、妨害する生徒に対しての不満があるという記述が多く見られた。 <p>教員の授業に対する工夫やICT機器の活用への満足は感じながら、授業規律については改善を求めている。</p> <p>3、学校設備、環境について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎設備の老朽化については相当数の改善要求がでている。 ・自由記述において、清掃する機会を生徒や学校でつくるべきだという意見もみられる。 ・現状の清掃活動の改善を求める声が多い。 <p>4、生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭髪が厳しすぎるという意見がある一方で、化粧、アクセサリ、アルバイトについてきちんとしたガイドラインや校則をとるべきという意見が多くあった。 ・保護者からは気持ちよく挨拶する生徒が多いとの評価がある。一方で単車通学や制服の乱れなどの指摘もある。 ・頭髪以外の指導については、厳しい指導を求めている。 <p>考察からの提案</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 部活動活性化のために学校全体で取り組む ② 授業の工夫についての意見交換の場を活発にする ③ 大掃除の実施等、清掃のあり方を再考する ④ 頭髪、制服、アクセサリ等生徒の身だしなみについて指導の取り組み方を再考する 	<p>第1回学校協議会にて (6月16日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の自転車及びバイクの違法駐輪など、登下校時のマナーについて、指導をお願いしたい。 ・校門での立ち番に加え、木戸住宅など近隣での違法駐輪防止、登校指導のため、校外での立ち番を実施している。 ・就職希望者が増えている状況の中で、多岐にわたる職種から生徒に適した就職先への斡旋及び、就職指導をより丁寧をお願いしたい。 ・就職支援コーディネーターと連携し、個々の生徒に適した応募先を選定するための面接、応募先決定後の職場見学の実施など、より丁寧な手順で受験先の決定を行った。また、前年よりも面接指導の回数を増やした効果もあり、1次募集で8割を超える生徒が合格した。来年度も引き続き、同様の指導体制を維持していきたい。 ・基本的な生活習慣が身に付いていない生徒もいる中ではあるが、遅刻防止に向けての指導を引き続きお願いしたい。 ・日常的な遅刻指導は実施しているが、効果が乏しい生徒もいるのが現状である。来年度の入学生からは単位として認定する朝学習の導入もあるため、遅刻がより進級・卒業に影響する。遅刻防止及び基本的な生活習慣の確立は重点課題だと認識しており、来年度から遅刻指導の方法を変更する予定で現在、検討を行っている。 <p>第2回学校協議会にて (10月13日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校への帰属意識や目的意識を高めるためにも、部活動の加入率向上への対策をお願いしたい。 ・一昨年から4月当初に新入生向けに部活動体験を導入しているが、日程や実施方法の改善を行いながら来年度以降も継続して実施していきたい。部活動で活躍している生徒の結果をより幅広く伝える工夫が必要であるので、校内的には、全校集会での表彰や発表の機会を増やしていきたい。また、校外的には、部活動の様子をホームページで発信しているが、更新が乏しい部活動も多いので顧問と連携して、より丁寧な情報発信を行ってほしい。 ・地元探訪など、地元を知るための教育活動は本校の特色であるので、地域と学校を繋げる活動として、より発展的な取り組みを実施して欲しい。 ・地元探訪は全学年で実施している体制を継続していきたい。来年度入学生からは、2年次から郷土コースがあるため、発展的に郷土学を学べるカリキュラム作りを努め、地元探訪などの行事でリーダーシップを発揮できる生徒を育てたい。 <p>また、千代田フェスティバルやあいさつ運動、クリーンキャンペーンなど、地域と連携した活動を行っているが、まだ参加できていない地域のイベントもあるため、次年度は本年度よりも活動実績を増やせるよう、広報委員会でスケジュール確認・調整を行い、生徒会やクラブ員と連携し参加者の増加を図りたい。</p>

第3回学校協議会（2月2日実施）

1. 校長挨拶

本年度の最終報告に対して、忌憚ない意見を賜り、来年度の学校改善へ繋げていきたい

2. 協議案件提出及び資料の説明

① 授業アンケート（平松教頭）

・教科別の結果を基に報告

② 学校教育自己診断分析（井迫首席）

・分析結果と考察を報告

③ 学校経営計画進捗状況（大門校長）

本年度の取組内容及び自己評価

- ・確かな学力の育成
- ・規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ
- ・中退防止の推進
- ・学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり
- ・学校運営体制の確立と教職員の資質向上

④ 次年度に向けて

3. 協議

① 授業アンケート（平松教頭）

Q：数値結果について

A：各教科とも肯定的な回答をしている生徒が多く、生徒の実態に応じて工夫して授業されている。しかし、現状の結果に満足せず、ICT機器の更なる導入や授業研究の機会を増やし、よりよい授業作りを学校全体としてめざしていきたい。

② 学校教育自己診断分析（井迫首席）

Q：トイレの改善希望について

A：府の予算が計上されており、工期の日時は不明だが、1ヵ所、和式トイレから洋式トイレへの変更を予定している。

③ 学校経営計画進捗状況（大門校長）

Q：政治的教養を育む教育活動について

A：3年間を通じた教育計画を立て、指導をおこなっている。公民科授業だけでなく、総合的な学習の時間を活用し、具体的な投票方法など実際の選挙の際に必要な知識を河内長野選挙管理委員会に講演して頂いた。

Q：ノークラブデーについて

A：3学期から原則、月曜日に設定している。

Q：新教育課程について

A：大学・短大、専門学校、就職と多様化する進路選択への適応を狙った7つのコース制の導入、義務教育段階の学び直しを狙った朝学習の導入、郷土学の充実をめざした郷土コースの設置、シチズン教育の基礎となる長北タイムの設置など、本校生徒の現状に応じた教育課程に変更した旨を教育課程実施計画に基づいて説明した。

Q：進路状況について

A：就職については、1次募集で8割を超える生徒が合格した。生徒の就職への意識の向上、学校における就職希望への指導体制の強化もあり成果が出ている。進学についても、指定校推薦だけでなく、一般入試で指定校が無い学校への進学を狙う生徒も現れてきている。看護希望者もおり、希望者向けの講習会も実施している。

④ 次年度に向けて

・評議委員より

卒業後、すぐに就職先を辞めてしまう生徒もいる。夢や希望もあるが、現実を受けとめて努力する姿勢も必要である。また、学力とは違う社会に求められる教養も大切である。生徒各々の個性を尊重しながら、最適な就職先を選定する指導をしていく必要性を感じる。

A：就職先の選定については、就職支援コーディネーターとの面接、担任や学年の先生からの意見聴取、保護者懇談、個人懇談などを丁寧におこない、更に応募前職場見学で実際の職場見学も行っている。来年度も就職希望者は数多くいると思われるので、生徒の個性にあった就職先を選べるよう丁寧に指導していきたい。

・評議委員より

開かれた学校作りは大切である。授業に外部の方や保護者が来られることに慣れると生徒の様子も変わる。就職や進学など進路に対しての意識の芽生えや規律意識の向上になる。様々な方に見られていることを良い意味でのプレッシャーとして、教育活動に繋げていって欲しい。

A：授業参観は本年度、日曜日に設定したおかげで従来より大幅に来校者が増加した。2学期に実施した公開研究授業でも生徒は非常に真面目に、意欲的に授業に取り組んでいた。やはり様々な方に見られるのは効果的であるし、教師以外から褒められることは生徒の自己肯定感の向上にもつながる。来年度も保護者だけでなく、近隣の中学校の先生方向けの案内も行き、本校の様子をたくさんの方に拝見して頂き、長野北のアピールができるようにしていきたい。

・評議委員より

学校協議会に参加することで、先生方が日々、丁寧に指導をおこなって下さっていることが分かった。ホームページなどでの情報公開は、生徒の活動の様子が中心となってしまうのは仕方ないが、その裏側にある先生方の努力も地域や保護者の方々に伝えていくことができれば良いと感じる。

A：教員の活動・努力を保護者や地域の方に伝えていくのはなかなか難しいが、生徒の様子が変わり、地域や保護者からの本校生徒の評価が高まれば、教員の努力も同様に伝わっていくと感じている。今後も教職員の努力が地域や保護者の方から認めて頂けるよう、日々、教育活動に励んでいきたい。

・評議委員より

地域の企業さんとの話の中で、「北高さんって面白い学校なんやね。北高を希望する生徒がいる。」との声も聞くようになってきた。また、地域連携を積極的に行って頂いており、地域住民からの本校の評価も上がっている。地域住民からの意識もより良い方向に変わってきているので、北高生の良いところを伸ばし、規律面においてもしっかり指導して頂き、より良い学校をめざして欲しい。

A：地域連携の成果が地域住民の方々に認められているのは非常に有難く感じる。本年度は昨年度よりも、地域の行事への参加機会を増やすことができた。来年度も河内長野市を中心に地域の行事やイベント、お祭りなどに部活動・生徒会を中心に積極的に参加し、地域に貢献していきたい。

・評議委員より

教員アンケートについては、厳しい結果の項目もあるが、全体的には年々、向上してきている。上昇傾向にあることは非常に大切であるので、来年度も教員間の連携を密に教育活動を行って頂きたい。

A：教職員の業務の多忙性による情報共有の難しさや年齢構成がいびつとなっている中でのベテラン教員と若手教員の相互理解、新教育課程の導入に伴う学校全体としての方向性の意思確認など、課題は複数あるが、来年度は本年度を上回る結果となるよう、学年団での情報共有、管理職と教職員間との意思疎通、ミドルリーダーを中心とした教職員集団の相互理解の向上を丁寧におこなっていきたい。

施設や環境整備について、生徒の要求を受け入れていくだけでなく、生徒と一緒に環境整備を行っていく必要もあるのではないかと、生徒にチャレンジさせて、成功体験を積み、自己効力感を高める指導が大切である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成	<p>(1) 生徒の基礎学力を向上させる</p> <p>(2) 生徒の興味、関心、進路希望等に 応じた教育課程を 編成する。</p>	<p>①教科での公開授業を定期的に行い、「分かる授業」「楽しい授業」の定着をめざし、教員相互で授業力向上を図る。</p> <p>②「数学」、「英語」以外においても少人数授業を実施する。「数学」、「英語」においては、さらに踏み込んで習熟度別授業で学力レベルに合った授業を行う。</p> <p>③実験・実習を授業中に多く取り入れその成果などを発表する機会を設ける。</p> <p>④保護者向けの授業公開期間を学期に一度設定し、参加者の増加を図る。学習月間を設定し、研究授業を行う。(6月、1月)</p> <p>⑤業者テストを用い、その結果を補習や講習に活用する。</p> <p>⑥授業力向上プロジェクトチームを立ち上げ、授業研究と研修を実施する。</p>	<p>① 授業アンケートの「授業中は集中して先生の話聞き学習に取り組んでいる」「授業に興味・関心を持つことができた」の項目においての満足度を 80%以上にする。</p> <p>② 学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の項目を 75%以上にする。</p> <p>③ 「実験・実習の機会がある」を 50%以上にする。</p> <p>④ 保護者の参加者数を 50 名以上に する。</p> <p>⑤ 進路未決定者の減少(27 年度 5 名) 就職内定率 100%</p> <p>⑥ 年 1 回を実施する。</p>	<p>①授業アンケートの「授業中は集中して先生の話聞き学習に取り組んでいる」「進んで学習に取り組むなど、授業に積極的に参加している」や「授業に興味・関心を持つことができた」の項目においての満足度は 1 学期 81%、2 学期 80%であった。ICT 機器の活用、「協同的な学び合い」を推進する授業を取り入れた成果と考える。学校全体の取組として継続していきたい。(◎)</p> <p>②学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の項目は 42% (H27…42%) で数年数値が横ばいとなっている。生徒のニーズに応える一方でさらなる創意工夫が求められる。(△)</p> <p>③学校教育自己診断における「実験・実習の機会がある」の項目は 49%であった。(H27…42%) 数多くの実験や発表をおこなう授業によって生徒が能動的に学ぼうとする姿勢が高まりつつある。今後も更なる機会を設けたい。(○)</p> <p>④授業参観の日程を 28 年度は 5 月 8 日の日曜日とし、保護者が来校しやすいように変更した。その効果もあり、51 名の生徒の保護者の参加があった。家族で参観に来てもらっている保護者もあり、総計 80 名を超える参加となっている。研究授業についても初任者教員、10 年目の中堅教員が中心となって行うことができた。開かれた授業作りを進め、向上をはかりたい。(◎)</p> <p>⑤進路適性検査、基礎力診断テストを実施しその後振り返りをする事で生徒に進路決定の意識を高めている。進路未決定の生徒は 29 年 12 月現在 11 名となっている。(○)</p> <p>⑥業研究プロジェクトチームを有志で立ち上げ、数回に渡って授業方法の意見交換や外部講師を招聘し学校全体の取組として研修をおこなった。研修という形ではなく、日常誰もが授業を見て意見を交流させる風土の醸成に取り組む必要がある。(○)</p>

<p>規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ</p>	<p>(1)生徒の規範意識を高め、社会人として活躍できる人材を育成する。</p>	<p>① 地域と連携したボランティア活動（クリーンキャンペーン年間3回、あいさつ運動年間3回）を実施する。校内においてあいさつ習慣を向上させるため、毎月「あいさつ週間」を設ける。</p> <p>② 遅刻指導の方法を一部見直し、生徒に自ら時間を守ることの大切さを考えさせる。</p> <p>③ 通学時の安全確保のため、全教員で当番を組み、毎日の校外外で自転車指導を行う。</p> <p>④ 定期的に美化週間を設け、校内美化に努める。</p> <p>⑤ 部活動の活性化のために体験クラブの機会を増やすとともに外部指導者の招聘を行う。</p> <p>⑥ 「シチズン教育」の導入。国民・市民としての義務と権利について3年間で総合学習の中で系統的に学ばせ生徒の規範意識の醸成と地域交流の継続と発展をめざす。</p> <p>⑦ 「郷土学」を新コースとリンクさせながら充実させる。南河内の自然・文化・歴史を学び郷土愛を向上させる。3年間で総合学習の中で系統的に学ばせ生徒の規範意識の醸成と地域交流の継続と発展をめざす。</p> <p>⑧ 人権だよりを定期的に発行し、人権意識を醸成する。</p> <p>⑨ 「身だしなみ」講習(3年対象)の実施</p>	<p>① 千代田駅前でのあいさつ運動参加者数を150名以上にする。(H27 60名) クリーンキャンペーン参加者数を70名以上にする。(H27 47名)</p> <p>② 遅刻者数減少の努力を継続し平成30年には半減させる。(H27 8865名)</p> <p>③ 通学状況について学校協議会の地域代表者等から評価していただく。(H27 指標なし)</p> <p>④ 学校教育自己診断において「掃除がいきとどいており、校内はきれいに保たれている」を50%以上にする。(H27 44%)</p> <p>⑤ 「部活動、生徒会活動が活発である」を50%以上にする。(H27 37%)</p> <p>⑥ 学校教育自己診断において本校独自の設問を設定し、満足度70%以上を目標値とする。(H27 40%)</p> <p>⑦ 学校教育自己診断において本校独自の設問を設定し、満足度70%以上を目標値とする。(H27 66%)</p> <p>⑧ 人権だよりを年5回発行する。学校教育自己診断において「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を60%以上にする(H27 50%)</p> <p>⑨ 年1回民間企業と連携しスーツなどの「身だしなみ」講習を行う。(H27 一回開催)</p>	<p>①千代田駅前での参加者について、第1回、第2回合わせて120名の参加であった。クリーンキャンペーンをオープンスクールと同日におこなったため、参加できない生徒もいる。時期の再考が必要である。なおクリーンキャンペーンの参加者は今年度59名であった。(○)</p> <p>②12月末現在の遅刻者累計数は5986件、昨年度に対して減少傾向にあるが、更なる遅刻者減少の施策をおこなう必要がある。(○)</p> <p>③生徒の通学実態について、指摘された点(通学路の美化、校則違反の通学方法)を生徒指導部中心に啓発指導、巡視活動を行う。(○)</p> <p>④自己診断において「掃除がいきとどいており、校内はきれいに保たれている」は29%となった。(H27…44%)生徒の意見からも生徒が率先して清掃活動を行う機会を設定すべきであるという要望がある。学校全体の取組として清掃する機会を設定し取組むようにする(△)</p> <p>⑤自己診断において「部活動、生徒会活動が活発であると思われる」は42%であった。硬式野球部が本校単独チームで公式戦出場、水泳部で府内強化選手に選出、書道部や美術部で高校芸術祭入賞など活躍がみられる。加入率を更に高め、生徒が活躍する場を作っていきたい。(○)</p> <p>⑥3年生は近隣の選挙管理委員会に來校してもらい選挙権についての講義を受ける機会を設けた。2年生、1年生においても独自の教材を用い国民・市民の義務と権利について学ぶ機会を設定した。(◎)</p> <p>⑦自己診断において48%の肯定的評価を得ている。地元を知ることで新たな発見もあり、生徒にとって得がたい経験をしている。全学年がそれぞれ異なる場所に赴き地元の風土文化の素晴らしさを再確認している。(◎)</p> <p>⑧権について学ぶ機会を学年ごとに設定し、継続的に人権だよりを発行したが自己診断の結果は41%と低調であったため、生徒が必要とする課題について調査し指導していく。(△)</p> <p>⑨3年生において3学期に民間企業と連携し「身だしなみ」の講習を実施した。生徒も知らないマナーについて興味深く学んでおり継続して実施していきたい。(◎)</p>
---------------------------	--	--	---	---

<p>中退防止の推進</p>	<p>(1)生徒が生き生きと学び夢が実現する学校づくり</p>	<p>① 家庭との連携を強化する。連絡は電話や手紙に加えて可能な限り対面式とする。生徒指導以外でも積極的に家庭訪問を実施し、保護者との人間関係を構築する。 ② 担任と副担が協力して生徒の状況把握に努め、小さな変化も見落とさず、変化があれば面談をし、その後教員がチームを組んで指導する。 ③ 学校訪問で在籍生徒の情報を伝え、指導上の協力を要請する。 ④ 生徒の学習面での不安を除くために、学び直しの補習や講習を内容・回数ともに充実させる。 ⑤ 生徒の自尊感情を高め、自信をつけさせるために、総合的な学習の時間等を利用し、漢検・英検などの資格取得を支援する。</p>	<p>① 学校教育自己診断の「学校に行くのが楽しい」の項目を70%に引き上げる。(H27は59%) ② 定期的な生徒の情報交換会を実施する。(年間6回以上) ③ 三者懇談会を年3回以上行う。 ④ 中途退学者数10%減をめざす。 ⑤ 漢検・英検の合格者100名をめざす。</p>	<p>①自己診断「学校に行くのが楽しい」は53%だった。過半数の生徒が学校生活を肯定的にとらえているが減少傾向(H26…62%→H27…59%→H28…53%)にある。生徒指導以外の家庭訪問や電話連絡を密に行い保護者との積極的な関係作りをおこなっていく。(△) ②原則毎週学年ごとに意見を交換する会議を設定、更に他学年に渡る先生も交えた意見交流の会議を5回おこなった。(◎) ③三者懇談は各学期中間、期末考査後に実施した。(◎) ④中途退学生徒は12月末現在10名(41期0名、42期5名、43期5名)となっている。(H27年度は10名、内訳40期2名、41期0名、42期8名)(△) ⑤英語検定は15名受検し3級1名合格、漢字検定は232受験準2級3名、3級43名の合格。資格を進路に活かすために生徒が意識して受検をめざしている。講習等をおこない支えていきたい。(○)</p>
<p>学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1)生徒が生き生きと学び夢が実現する学校であることをアピールする。</p>	<p>① カウンセリングマインドを持ち、生徒の立場に立ち、生徒の自立を助け、正しい規範意識を身に付けた社会人の育成を行う。 ② 指導上悩みを抱えた生徒の情報を、出身中学校にも情報を提供し、また情報収集しながら、生徒の人間関係作り・自らの生き方を考える取り組みを推進する。 ③ 河内長野市及び隣接の富田林市・大阪狭山の中学校訪問回数を増やし、連携強化を図る。また、生徒の出身塾を訪問する。 ④ 学校説明会・学校開放講座・楽習室の充実をはかり、開かれた学校づくりに努める。 ⑤ 携帯連絡網を駆使し、HPも活用したリアルタイムの情報の提供を行う。 ⑥ 知らせるべき進路内容を再確認し、HPや⑤の情報提供網を駆使した進路提供を行う。 ⑦ 定期的な「学年会」(最低週1回開催)を継続し、課題や情報の共有と理解を浸透させる。 ⑧ コースの内容を具体化しH28年度の完成をめざす。 ⑨ 就学支援委員会を中心に全教員が生徒の支援について共通認識を持ちケース会議を通じて迅速に対応する。</p>	<p>① 相談室の利用者数10%増加(H27は51名)と生徒指導の懲戒件数10%減少をめざす。(H27は19件) ② 近隣3市の中学校訪問回数を3回以上行う。(H27は3回、全訪問回数109回)塾訪問15件以上行う。 ③ 学校教育自己診断の「学校からの教育情報提供」の項目の満足度90%をめざす。(H27は64%) ④ 学校説明会を年3回実施する。その中で、授業見学・体験クラブを実施する。楽習室を年2回以上実施し、参加者100名をめざす。(H27は20名) ⑤ 学校教育自己診断における「保護者への情報提供」の項目で、満足度を80%以上にする。(H27は59%) ⑥ 携帯連絡網の登録率を70%にする。(H27は44%) ⑦ 職員会議を月1回開催し、その他の木曜日を「学年会」の曜日に位置付ける。平成27年度に職員への周知は完了し、首席を中心とした具体的な実施内容を完成させる。 ⑧ 具体化を完成させH29年度から実施する。 ⑨ H29年度から実施する。学期に1回程度。</p>	<p>①相談室の利用者数は12月末現在55名、生徒の懲戒件数は32件となっている。(○) ②隣3市のみならず大阪市内の中学校を訪問した。(3回、96校訪問、32校資料送付及び連絡)学習塾についても50箇所以上訪問した。(◎) ③自己診断「教育活動に必要な情報について教職員は生徒・保護者への周知に努めている」については65%であった。(H27は64%)学校HP更新頻度の向上、携帯連絡網の活用など学校全体で取り組む必要がある。(△) ④校説明会を年4回実施した。今年は保護者の参加が多く、学校の関心が高まっていると感じられた。12月の説明会は過去最高の40名の参加があった。楽習室は1回実施し、25名の参加があった。(○) ⑤自己診断「学校は教育情報の収集や保護者への提供の努力をしている」については73%であった。(H27は59%)(○) ⑥携帯連絡網の登録率は62.5%となっている。保護者への迅速な情報共有に努めたい。(△) ⑦職員会議を原則月1回開催し、毎週月曜日に学年団会議を開催することで生徒の情報共有が円滑になった。(◎) ⑧新カリキュラムをH29年度より実施する。(◎) ⑨就学支援委員会を毎週実施し、配慮を要する生徒についての情報の共有と対応について専門家を交えて開催した。更に生徒ごとに教科担当、学年関係者を招集しケース会議を学期に1回開催し、細やかな対応が出来るように努めた。(◎)</p>
<p>学校運営体制の確立と教職員の資質向上</p>	<p>(1)教職員の資質向上を図るため日常的なOJTの推進と校内研修の活性化を行う。</p>	<p>① 校外研修で得た情報を共有する。 ② 校務処理システムにおいて、日々の欠課入力ができる基盤を作り、業務の効率化、軽減を図る。</p>	<p>① 職員会議で学期に1名以上発表させる。 ② 職員会議を原則月1回とする。校務処理の日々入力をH29年度に導入する。80%を当面の目標とする。</p>	<p>①学期に1名以上発表できたが、全てにおいて十分な共有がなされていない。資料の共有などを含め推し進めていく必要がある。(○) ②職員会議を原則月1回開催し、業務の効率化をはかった。校務処理の入力についてはほぼ全ての担当が当日中に入力をするようになっている。(○)</p>